



2017.03 がん哲学外来 ナース部会 ニュースレター VOL. 9

第3回シンポジウム決定

6月10日(土) 13:30(受付13:00)より、東京・東中野キングスガーデンにて、第3回がん哲学外来ナース部会シンポジウム開催が決定しました。

申し込み先：nurse@gantetsugaku.org

(返信メールが受信できるよう設定をお願いします)

参加対象者：看護師・看護学生・医療職参加費：500円

シンポジウム実行員及び、当日お手伝いできる方募集中

基調講演は、東京医科歯科大学大学院保健衛生研究科がんエンドオブライフケア看護学分野准教授の山崎智子先生にお願いしています。



新年会を行いました

1月7日のOCCメディカルカフェの後のナース部会は新年会を行いました。

お茶の水駅近くのメキシコ料理屋さんで@おいしいパエリアをいただき、シンポジウムに向け英気を養いました。

月1回部会をしています

OCCメディカルカフェの日に、メディカルカフェに参加、終了後に近隣のカフェ等でがん哲ナース部会を行っています。初めて部会に参加ご希望の方は、OCCメディカルカフェから引き続きの参加をお願いします。



『がん哲学外来と私』

東中野キングスガーデン看護師 青木 美由紀

「誰にでも居場所がある」がん哲学外来を言葉にするとこの言葉がでできます。

参加した初期のころは「私に一体何が出来るのか？」と周囲を見渡し身構えていました。回を重ねるごとにがん哲学外来の魅力が少しずつ理解できるようになってきました。樋野先生の「俯瞰的に物事を見る」「人生茨の道にも関わらず宴会」などその時々自分の気持ちに合った言葉の処方箋が響いてきます。毎回の人との出会いはどれも同じものではなく、その中で醸し出されるもの、お互いを受け入れ共感することに喜びを感じます。ここでは何を語ってもよいのだという安心感があります。いろいろな人がいて、いろいろな状況があり、それを受け入れながらある人は使命を持ち、ある人は支え、ある人は別れ、様々な思いを共感しながら一緒に前進していく事を感じます。振り返ると恵みに満ちた時を参加される方々と過ごしていると感じます。そしてそこが私にとっての居場所だと思います。誰にとっても居場所でもある。私にとって価値のあるかけがえのないものになってきているのががん哲学外来だと実感しています。

必要なのは正論より配慮

ナース部会世話人岡田坦子

樋野先生のがん哲学外来の言葉の処方箋、たくさんある中で今、私の心に残っている一つが『必要なのは正論より配慮 正論は人の数だけある』

若い母親時代、高校生の二人の子供にお説教しました。『常識でいうと…』『エー常識って！それお母さんの常識でしょう？』

私は大人の常識は皆同じで正しい！とっていました。このときから何が正しいことなのか…と考えるようになりました。

私自身、何かにぶつかってふっと考える時、ああこれが先生のあの処方箋なのかな？と思うことがたくさんあるのです。

小さな事ばかりですが自分の出来る事を見つけ日々精一杯やってゆけば良い。尺取り虫のように一歩ずつ探しながら歩んでゆくのも私の残された時間の使い方かな？とも思っております。

がん哲ナース募集中・HPよりお申込みください

がん哲学外来ナース部会HP：<http://gantetsuns.jimdo.com/>
ナース部会ブログ：<http://blogs.yahoo.co.jp/gantetsugakugairains>

がん哲学外来ナース部会 (一般社団法人がん哲学外来内)
顧問：一般社団法人がん哲学外来理事長 樋野興夫 /編集 上杉有希